

クラス番号	623	担当教員名	伊藤 文人
テーマ	怠け者に優しい社会（ユートピア）のあり方（働き方や福祉の形）について考える		
著書・論文	ITO, F. (2014) 'Social work ethics and social justice: a growing gap' in Banks, S. (2014) <i>Ethics</i> , Policy Press.		
研究課題等	伊藤文人他編著（2015）『現代社会と福祉』（東山書房） サラ・バンクス／伊藤文人他監訳（2016）『ソーシャルワークの倫理と価値』法律文化社 ラディカル（・グローバル）・ソーシャルワークの歴史的・理論的・思想的研究		

ゼミナール概要

キーワード：怠け者、アナキズム、ベーシックインカム、贈与、お金のかからない生活

目的、内容、方法等：

社会福祉やソーシャルワークに関する授業の多くは、それらを必要とする人々の置かれた「悲惨な」「厳しい」状況（貧困、格差、差別、偏見、排除、暴力の諸相＝社会の「ディストピア（暗黒郷）化」を知る）を学習することから始まりますが、（自分で講じていても思うのですが）聴いていると段々聴いている方も心が荒（すさ）んでくることがありますよね？そして受講生の多くは、こう思うのではないのでしょうか？「いやー、一步間違えれば僕らも貧困のどん底に落ちる」「精神を病んで病院に行くかもしれない」「どうせ僕らの世代は、今までの世代が享受できた生活水準（雇用安定、婚姻安定、年金安定・・・）には到達できないでしょ？」「過労死が出ようがなんだろうが仕方ない」「それでも働き続けたいといけないうでしょ？」「そもそもすでに貧乏過ぎて話にならない。大学の授業料高すぎるしやっついていられない」などなど・・・。うーん、そういう意味で、社会福祉やソーシャルワークのことを深く勉強しようと思っても、なんとなくやる気が湧いてこないとか、そもそも専門職になんかなりたいとも思っていない（or 思わなくなった）し、もっと他にやりたいこと or やりたいことはあまりないけど、できれば違う領域で生きてみたい・・・なんて思っている受講生も多いと思います。

「できることなら、あまり働きたくないし、それでも生活を充実させる方法（「働かず、たらふく食べたい」）について考える余地はありそうだ」と思っている「そ・こ・の・あ・な・た」にうってつけのゼミになるかもしれません（笑）。

本ゼミでは、できるだけ働かず、好きなことをして人生を謳歌したいと願って、いろいろなことを考え試みてきた人たちの考えや実践を学び、そこから私たちの近未来に起きる社会を想定しつつ、その中でどれだけ「怠けながらも、生活の質を上げていけるか、それをどういう方法で達成できるか？」という「ユートピア（理想郷）」について考えてみたいと思います。怠け者にとっても「自分らしく生きることができる、自由で自律的な社会の仕組みを考えていく」ことは、従来の自立観・就労観・結婚や家族観などを相対化していき、自由な社会に見合った所得保障や社会サービスの仕組みの再編を伴うものだからです。

授業計画：

（前期）「怠け者」に優しい社会を考えようとしてきた先人、それを受け継ぎ実践をしている人の著作を購読していきます。具体的には、栗原康のアナキズム系の本や小谷靖の「怠ける権利」を読みたいと考えています。

* 夏季休暇中は、他大学との合同ゼミ合宿を実施する予定です（一泊2日）。

（後期）「怠け者」に優しい社会の仕組みの実践例について内外の事例を探し出して、その実現可能性を考えます。

（具体的には、①ベーシックインカム、②日々の贈与行為、③お金のかからない生活実践について考えます）

その上で、各自が卒業論文のテーマを決めて、執筆していきます（春休みはできれば卒論合宿をしたいですね）

担当教員からのメッセージ

（注意）本ゼミは、「怠け者に優しい社会とは何か？」をテーマにしていますが、学習内容や方法についてはそれなりにインテンシブなので、必ずしも「怠け者」に過度に優しくはありません。したがって、身も心も「怠け者」になりきっていて、「ゼミに顔を出していれば単位認定してくれて先生があれこれサポートしてくれて卒業論文も実質的に書いてくれるはず」などと思っている学生さんには向きません（笑）。ある程度の怠け心は許容しますが、それでも一応大学ですから、「怠け者に優しい社会の仕組みや方法」をみんなで楽しくわいわい考えて実行していくための胆力や実行力を養いたい人は是非お越しください。できるだけお金のかからないゼミ運営を心がけたいと思います。